

(シャボン玉石けん)

生活排水の環境及び生物に対する影響に関する実証実験プロジェクトについて

【日時】 令和8年1月19日 14時～15時50分

【場所】 シャボン玉石けん株式会社

1. 視察地の概要

1910年創業。「健康な体ときれいな水を守る」を理念とし、1974年に合成洗剤から無添加石けんの製造・販売へ完全転換した。その理由として、シャボン玉石鹸元社長が石鹸を使ったところ、かゆみ等が改善されたことに気がつき、この事実自信を持って固い信念でシャボン玉石鹸を製造することに決めたということである。同社の無添加石けんは、化学物質を一切使用せず、熟練の職人が「釜炊き製法（ケン化法）」を用いて約1週間かけて丁寧に炊き上げるのが特徴である。この製法により天然の保湿成分が残るため、人への優しさと高い洗浄力を両立し、排水は短期間で分解されるため環境負荷も低い。現在は、石けん系ハミガキやシャンプー等の家庭用品から、産官学連携による「石けん系消火剤」の開発まで幅広く展開している。北九州市に本社を置く地場企業として、持続可能な社会（SDGs）の実現に寄与する独自の製品づくりを徹底している。「技術において世界一の石けんメーカー」を目指し、石けんの有用性を広める啓発活動にも注力する先駆的企業である。徹底した品質管理と信念に基づく経営は、環境行政や地域経済の活性化を考える上での先進事例となっている。



2. 調査事項の概要

シャボン玉石けんにおかれては

徹底した品質管理と信念に基づく経営は、環境行政や地域経済の活性化を考える上での先進事例となっている。シャボン玉石けんにおかれては産（シャボン玉石鹸）学（山口大学）官（九州環境管理協会）との三者で連携協力体制をとって研究を行っている。

石鹸と合成洗剤は両方とも界面活性剤であるが全く別物である。

(シャボン玉石けん)

石鹼と合成洗剤の違いは肉を焼くときに滴り落ちた油と灰が混ざって出来たもの（化学式CaMg）と理解していい。

石鹼は海や川で魚の餌になるが、合成洗剤はなかなか溶けにくく自然に戻ることが難しい。つまり石鹼はそのまま海や川に流されても自然に戻る。シャボン玉石けんにおいて実験を見せてくださったのだが、まず始めに合成洗剤と無添加石鹼の二つの液を別のビーカーに入れ、その二つのビーカーに酢を混ぜたときの泡立ちや液の透明化の様子を見せてくださったのだが、石けん液のビーカーはすぐに泡がなくなったが合成洗剤液のビーカーではない液が透明にはなったが泡は減らなかった。

また、同じく合成洗剤と無添加石鹼のそれぞれの液を入れた水槽に魚のアジを入れたところ合成洗剤の液を入れた水槽ではアジはすぐに浮いてしまい、無添加石鹼の入った水槽では何の問題もなく生存していたところを見るとその安全性の差は一目瞭然であった。

例えば東京日本橋の洗浄活動にシャボン玉石鹼を使っているが、洗い流した水はそのまま川に流している。受けた印象は合成洗剤を安易に使うことはできるだけ速やかに止めなければいけないと思った。

JRにおいては、その後、列車等の洗浄において合成洗剤から石鹼に変更をしている。

宗像市地島における実証実験について

宗像市地島で実施された「島まるごと無添加石けん生活」実証実験は、全島民協力のもと生活排水を合成洗剤から無添加石けんに切り替え、海洋環境への影響を科学的に検証した試みである。産官学民連携による調査の結果、下水処理施設内での微生物の多様化や水質浄化機能の向上が確認されたほか、海洋生物への安全性が実証され、島民の環境意識向上にも寄与した。

Q 地島での住民説明会で苦労した点は

A 宗像市からの事前説明があったために別段苦労した点はない

Q シャボン玉石けんの標品としてはどのくらいの予算を必要としたか

A 一軒当たり1万5千円で約200万円を要した

(シャボン玉石けん)

Q 水質の結果はどのように変化し満足な結果は得られたか

A 3ヶ月の使用期間は短いと感じたが思った以上の成果が見られた。
少なくとも半年から一年くらいはほしい

Q実証実験結果報告後の成果は

A北海道厚岸町では町の補助額 20%で石鹼使用を奨励している

Q西尾市にも人口約 170 人ほどの島があります。ここで同様の実証実験
をするとしたらどんなことが課題になりそうですか

A西尾市との協議が必要となります

3. 所見・西尾市政への反映に向けた課題

環境行政と離島振興を融合させる示唆に富む選考事例であるため、本市の離島（佐久島）での環境改善の参考となる手法はないか調査を行った。

本市の佐久島において、海藻を植えたりして海の浄化に長いこと取り組んでいるが、この地島（じのしま）における実証実験をそのまま運用してみても良いのではないかと感じた。

また佐久島のみならず環境保護改善について機会があるごとにこの視察報告書を参考にさせていただけるように、是非、理事者側に進言したいと思っている。

SDGsの推進とともに山口市の「ゼロカーボンシティ宣言」「デコ活宣言」について

【日時】令和8年1月20日 10時～11時40分

【場所】山口市役所

1. 視察地の概要

平成の大合併により県央中核都市の実現を目指し平成17年10月1日に近隣市町と合併し、さらに30万規模の人口とバランスのとれた産業構造を有する広域県央中核都市の創造に向け平成22年1月16日に新たな編入合併をし、人口総数198,727人、市域面積1023.23km²の新たな山口市が誕生した。

2. 調査の契機

SDGsの推進とともに令和3年12月に「山口市ゼロカーボンシティ宣言」を行ったという情報を得て調査したところ、環境省が推奨しているところの「デコ活宣言」を新たに行われたということに関心を示し調査することとした。

SDGs山口市視察質疑応答

Q 令和3年（2021年）12月に「山口市ゼロカーボンシティ宣言」を行い、地球温暖化という課題に向き合い、再生可能エネルギー等を最大限活用した地域脱炭素の取組を積極的に進めていく決意を表明したということですが、そのきっかけはどのようなようでしたか？

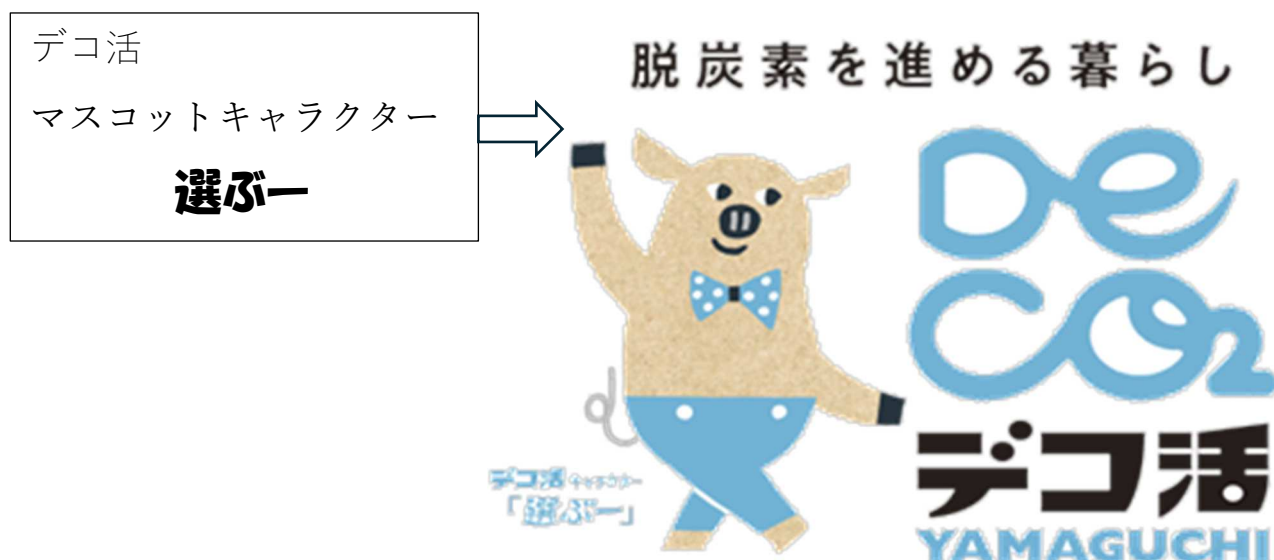
A 以前は市独自で山口市クールチョイス宣言(H30年3月)という名前で活動していたが、その後、山口市ゼロカーボンシティ宣言(R3年12月)→山口市地球温暖化対策実行計画→国のデコ活移行の動きに呼応し2050年ゼロカーボンシティの実現や環境目標の一つである「地球脱炭素を牽引し未来の子どもたちが安心して暮らせるまち」の実現に向けてデコ活を推進することとした。

Q 御市の環境政策課における、「デコ活宣言」を担当されている職員は何名ですか？

A 課としては課長以下9名で行っているが「デコ活」担当は3名である。

Q 「デコ活宣言」において脱炭素につながる製品、サービス、取組展開を通じて国民の彩り豊かな暮らし（デコ活）を後押ししますということですが、脱炭素製品、サービス、取り組み展開の内容についてご説明ください。

A 市職員が一市民一事業者としてデコ活に取り組むという考え方で臨み、主として市民の皆さんに馴染んでいただき、またしっかり理解していただくために、マスコットとしてエラブー(ブタマスコット)→選ぶを作った。



Q 日々の生活・仕事の中で、デコ活（脱炭素につながる豊かな暮らし）を実践しますということですが、日々の生活、仕事、デコ活について具体的にはどのような実践をされてきましたか？

A-1 市内の幼稚園・保育園などの園児やその保護者を対象として、子供向けぬり絵コンテスト。

A-2 川柳を市民に募集。

A-3 デコ活クイズラリー、エコバッグなどのワークショップを開催。

A-4 51種類の環境学習講座を開いた。

Q 「デコ活」を宣言されてから、具体的にどのようなことを実施されましたか？

A-1 令和3年(2021年)12月に「山口市ゼロカーボンシティ宣言」を行い、地球温暖化という課題に向き合い、再生可能エネルギー等を最大限活用した地域脱炭素の取組を積極的に進めていく決意を表明した。

A-2 山口県立大と連携し学生のアイデアで双六を作る。

A-3 授業の一環として地域のイベントを企画したり手伝ったり、ウェブサイトやSNSを発信したりしている。

A-4 メディアと連携した広報およびテレビ放映をしている。

Q 市民、事業者、民間団体の皆様と連携、協力しながら「デコ活」を推進することということですが、市民、事業者、民間団体の皆様とどのような連携協力をしているのですか？

A エアロバイク発電装置を利用したガチャゲームを行った。

Q 2050年の実現にはどのような目標を立てて、どのような成果をめざしているのですか？

A 51種類の環境学習講座を開催し、少しずつであっても参加者の理解を深めていきたいと考えている。

Q 本市の環境目標の一つである「地域脱炭素をけん引し未来の子ども達が安心して暮らせるまち」の実現を目指すということですが、御市にとって地域脱炭素とはどのようなことですか？

A 活動を通して地方創生につなげていく。

Q 地域脱炭素を牽引することで子どもたちが安心して暮らせるまちとは、どのようなまちであるということですか

A 脱炭素市民運動を行うことにより便利で安全安心のまちづくりを目指すこと。

Q 具体的には、どのような内容を目標としているのですか？

A エシカル消費(人や社会、地域、環境に配慮した消費行動、)の啓発をしていきたい。

エシカル消費

- 売上の一部が社会貢献活動などに寄付される商品・サービスを選ぶ
- 障がい者施設で作られている商品を購入する
- 地元のお店で買い物をする
- マイバッグ・マイボトルを持参して包装を断る
- ごみの分別を徹底する
- 必要以上に買わない

Q 4年を経過していると思いますが、どのような途中経過ですか？

A-1 R6年 山口グリーンエネルギー会社を設立した。

A-2 埋め立て場跡にメガソーラーを設置し、清掃工場ではゴミを燃して売電している。

A-3 Bioマス発電をしている。

A-4 発電量が余ることから商店街や新山口駅にも供給している

A-5 わくわくエコスクールを行っている。

Q 国では、脱炭素の実現に向けては2030年家庭66%、運輸35%、業務51%削減など暮らしの分野でも大幅な削減が求められますということですが、御市では、4年を経過した今日、どのような数値であると把握して見えますか？

A 産業部門での削減が大きいと考えている。

Q 国によれば、脱炭素という言葉を知っている人は、90.8%、行動に移している人は33.1%とっていますが、御市の市民はどのような数値であるとお考えですか？

A 18歳以上で脱炭素を知っている人の割合は、令和5年17%令和6年16.5%であった

Q 脱炭素について、若年層では、よくわからない、意識貢献できる瞬間がないと回答した人が、約6割ということです。御市におかれては、どの程度であるとお考えですか？

A 「デコ活」を知っている人は令和5年では32.6%、令和6年では22.2%であったが、地球温暖化対策を意識して生活している市民の割合は令和5年では72.3%、令和6年では72.2%であった。

Q 国の令和6年度、補正予算及び令和7年度投資予算の合計額が3,549億円ということですが、この中で、デコ活推進事業で37億円、住宅のZEH、省CO2化促進事業94億円、断熱窓への改修促進等による住宅の省エネ、省CO2加速化支援1,350億円、商用車の電動化促進事業400億円などと説明されていますが、御市はそれぞれいくら事業費補助金等を受け取って見えるのですか？

A 「デコ活」推進事業では交付を受けていない。住宅のZEHは民間事業であるから分からない。

Q デコ活応援団について、御市の場合、いくつの企業と団体と個人が参加していますか？多くの青年会議所が参加しているようですが、御市の青年会議所は参加しているのですか？

A 登録している団体の数は1団体であるが市は関与していない。青年会議所は参加していない。

Q 「もっと節電しなければ」などと我慢するのではなく、環境にやさしい商品・サービスを取り入れることで、脱炭素なのに快適で健康な生活を実現するという方針は、市民の中にどのように浸透していると感じて見えますか？

A 「デコ活」の認知度はまだ低い。

Q 御市のデコ活周知啓発事業業務委託について、令和6年度と7年度に委託した主な委託先を具体的にご教示ください。

A 委託先はプロポーザルによって株式会社コアに委託した。

Q また、委託事業について目に見えるような効果がありましたか？

A SNSやWeb広告等の事業者のノウハウを活かした広報やその他の事業者や団体等とのつながりを生かした事業展開により「デコ活」の市民の認知度向上や実践促進に寄与している。

3. 所見・西尾市政への反映に向けた課題

本市においては、環境基本計画に基づく「デコ活宣言」については検討段階であるということであった。西三河9市においては半分以上、担当課が設けられている。人が無い金が無いということから踏み切れないでいるということであった。

しかし山口市の「デコ活宣言」の調査を進めたところ、国においても山口市においても予算額から判断した場合、あまりの予算規模の少なさに、真剣に力が入っているとは感じられなかった。

申し上げた通り「デコ活宣言」に関する山口市における今年度予算は総額600万円ということであったが、そのうちの具体的な活動費は150万円ということであった。この数字をお聞きした上で活動内容のご説明をいただいて、率直にこの予算額でよく頑張っていると感じた。

その理由はボランティア団体あるいは民間企業の理解と協力によるところが大きいということであった。

SDGs およびゼロカーボン運動は日頃から心がけていなければならないものとするが、「デコ活宣言」に関しては、国の予算規模の少なさをを見る限り、本市の担当部課としてしばらく様子見であってもよいのではないかと感じた。

西尾市議会議員 筒井 登